

# 内科

## 診療科の紹介

外来は呼吸器・消化器・神経・腎臓・甲状腺・一般内科外来を設置しています。また、出来る限り救急患者の受け入れを行なっています。これからも、地域との連携を深め質の高い医療を提供出来るようスタッフ一同努力いたします。

## 取り扱う主な疾患

### ■呼吸器内科

呼吸器内科は常勤医3名と非常勤医6名の計9名で診療しています。当院の救急病院としての特色を活かし、新型コロナウイルス感染症を含む呼吸器感染症・気管支喘息・COPD(慢性閉塞性肺疾患)・間質性肺炎を中心に急性呼吸不全および慢性呼吸不全の急性増悪などの救急患者に対応しています。

肺癌診療に関しては、気管支鏡専門医の下、肺生検、縦隔リンパ節生検、胸腔鏡検査による肺癌診断を行なうと共に、抗がん剤治療・外科的治療に関しても積極的に取り組んでおります。放射線治療など当院で提供困難な治療が必要な場合は、北九州医療センターと連携しておりますのでご紹介いたします。

重症気管支喘息に対しては生物学的製剤による治療を行なうと共に、新たな治療法として保険収載された気管支熱形成術も行なっております。北九州市内で導入している施設は当院のみです。

慢性期管理では、慢性呼吸不全に対しての在宅酸素療法の導入に加えて、薬剤師・看護師・理学作業言語療法士・MSWを含めた多職種連携による外来・入院における呼吸器リハビリや、近年では呼吸器診療に欠かすことの出来ない吸入薬に対する患者指導も積極的に行なっています。また睡眠時無呼吸症候群に対しての終夜睡眠ポリグラフ検査およびCPAP療法の導入にも対応しております。

このように当院では急性期から慢性期まで幅広い呼吸器診療を心がけています。

### ■消化器内科

非常勤医5名にて消化器疾患の外来診療(平日午前中)を行なっています。上下部消化管内視鏡検査は消化器外科や非常勤医師の応援で行なっています。

### ■甲状腺

非常勤医師1名により、バセドウ病等の甲状腺疾患の外来診療を毎週月曜日に行なっています。

### ■脳神経内科

中枢神経(脳・脊髄)から、末梢神経、筋肉に至る様々な病気を対象にしています。頭痛、しびれ、ふるえ、めまい、筋力低下などの診断・治療のほか、神経救急疾患(脳血管障害、脳炎、髄膜炎、ギランバレー症候群など)や、パーキンソン病をはじめとした神経難病についても診療に当たっています。

### ■腎臓内科

月、火、木の週3回腎臓内科の外来診療をしています。

検診などで血尿や蛋白尿などの尿異常や、糖尿病性腎症、薬剤性腎障害、腎実質性高血圧、高尿酸血症など、腎臓病の保存期を中心に治療を行なっています。当院では維持透析は行なっておりませんので、末期腎不全に至った患者さんは適切な医療機関へご紹介いたします。また、重症例や腎生検診断が必要な場合、産業医科大学腎臓内科と連携していますのでご紹介いたします。腎生検診断後の治療継続は、当院でも副腎皮質ホルモンや免疫抑制剤などによる治療が可能ですのでご紹介ください。

### ■膠原病

非常勤医師1名で毎週金曜日に外来診療を行なっています。関節リウマチをはじめとした膠原病を広く診療しています。多系統領域にまたがる疾患ですので、当院の複数の専門科と協力しながら診療を行なっています。重症例は、産業医大第一内科と連携して治療を行ないます。膠原病の病初期の判断は困難なことが多いのですが、この時期の治療の重要性も確認されています。疑わしい症例は、ご遠慮なくご紹介ください。

## 当科の特徴(強みや新たな取組み等)

### ■主な検査・治療

#### ■気管支鏡検査

気管・気管支変および肺内病変に対しての気管支鏡検査を行っています。ほぼ全例鎮静薬の投与下に検査を行なうことによって苦痛をできる限り与えないように心がけています。原則1泊2日の入院で検査を行なっています。

主に腫瘍性病変に対しての経気管支肺生検・擦過細胞診、びまん性肺疾患に対しての気管支肺胞洗浄検査などを行なっています。また適応症例に対しての気管支充填剤(EWS)の留置なども行なっており幅広い疾患に対応しています。オリンパス社製の最新ビデオスコープ(290シリーズ)および超音波システム(ガイドシース併用気管支内腔超音波断層法)が導入されており優れた診断精度での検査が提供できるよう努めています。

2019年末より新たにコンベックス走査式超音波気管支鏡(BF-UC290F)を導入したことにより縦隔リンパ節を含めた気管支周辺組織の超音波気管支鏡下吸引針生検(EBUS-TBNA)が実施可能となり、気管支鏡検査における適応疾患がさらに拡大しています。

#### ■局所麻酔下胸腔鏡検査

一般的な胸水検査では診断をつけることが出来ない胸水に対して局所麻酔下での胸腔鏡検査を施行しています。胸腔内の観察および壁側胸膜の生検・細胞診を行なうことにより原因診断を行なっています。主に癌性胸膜炎・悪性胸膜中皮腫・結核性胸膜炎などの診断に有用です。

#### ■気管支熱形成術(気管支サーモプラスティ)

重症気管支喘息の治療を目的とした気管支鏡下の手技です。高用量の吸入ステロイド薬および長時間作用型 $\beta$ 2刺激薬の投与下でも喘息症状がコントロール困難な重症患者に対して症状緩和を目的として行ないます。

気管支鏡を通して電極付きカテーテルを気管支内に誘導し、高周波により気管支を65度に温めます。気管支全体を3つのブロックに分けて3週間以上の間隔を空けて計3回の入院治療により処置を行ないます。加熱処置により気管支平滑筋量を減少させ気管支の収縮を抑制することで気管支喘息発作が減少するとされています。少なくとも5年間の治療効果の持続が期待出来ます。

#### ■終夜睡眠ポリグラフ検査

毎週水曜日に1泊2日の個室入院により終夜睡眠ポリグラフ検査を行なっています。睡眠時無呼吸などの睡眠障害に対する精密検査を行ないます。検査目的の紹介は内科外来にて随時受け付けています。